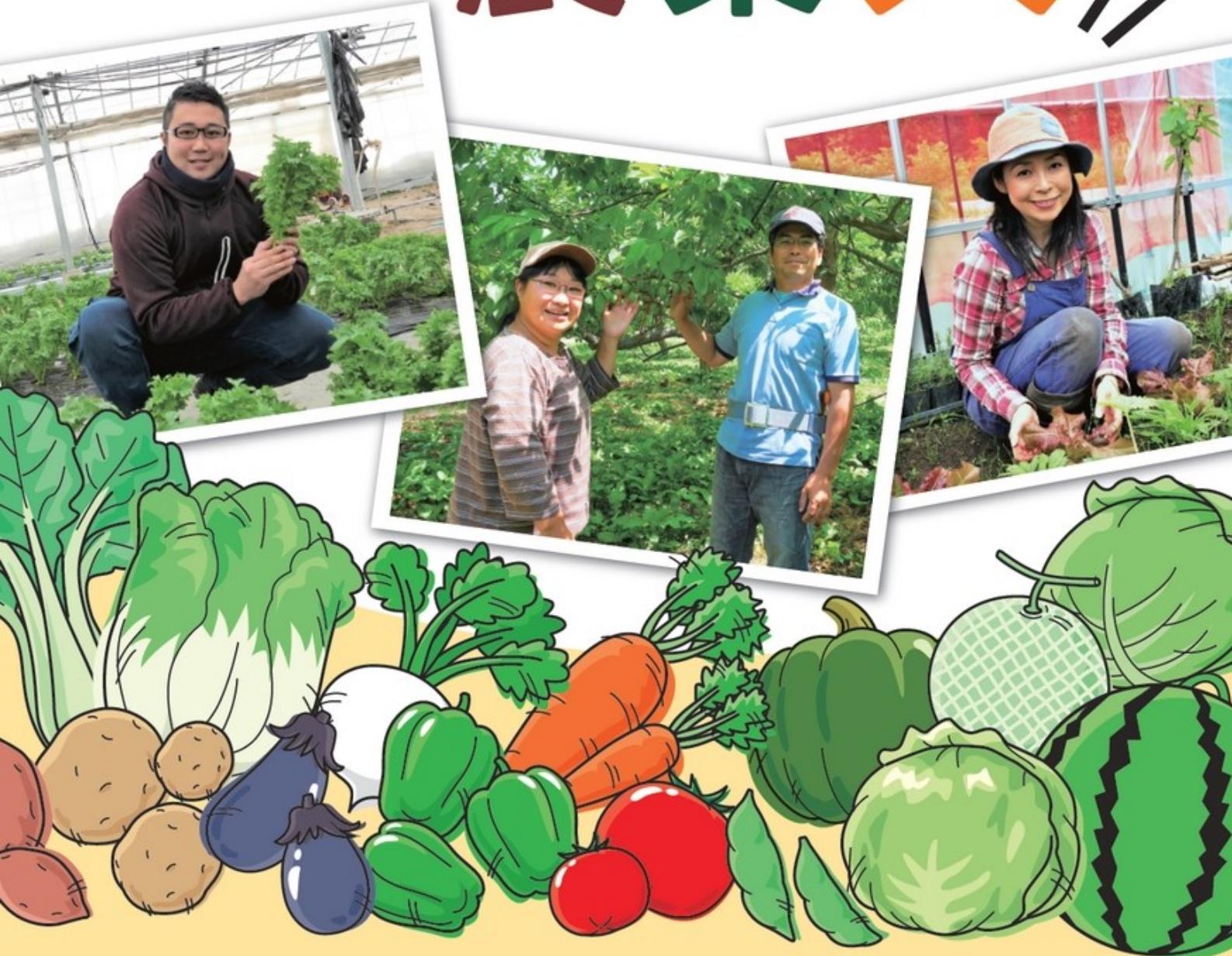


あなたも 新やまがた 農業人



公益財団法人 やまがた農業支援センター

新やまがた 農業人

紹介



東京生まれ、東京育ちで、以前から田舎暮らしへのあこがれがありました。軽井沢に住んだことがあり、都会を離れての自給自足生活への関心が高まり、夫の実家が酒田だったことから遊佐町での就農を決めました。

農業に関しては全く知識も経験もなかったので、皆が作っている作物では喰い込んでいけないと思いました。特定の人々に需要があるものが売り出すときの強みになるのではないか、と考えて在来作物を中心に150種類ほどを作り、主に首都圏に野菜セットを直販しています。

実際就農してみると、土壤栄養のことや地形を踏まえた水利、工具の使い方や農機具の整備など、想像以上に頭を使う作業や工程が多いことに驚きましたが、自然を体感し、気持ちも豊かになって、健康的になったと実感しています。

多品目を作っているので、スケジュール管理は必須で、冬に

ターゲットを絞った
野菜づくり

和島 千春さん

【出身地】 東京都
【就農前の仕事】 医療事務
【就農地】 遊佐町
【就農年度】 令和元年度
【経営概要】 ズッキーニ・大玉トマト・なす・きゅうり他在来作物を中心に少量多品目の野菜70a（うちハウス217m²）

まとめて1年分、品目ごとの計画を立てています。悩むことも楽しみの1つなので苦労は感じませんが、土壤が悪いところがあるので今後は畑の土づくりが課題です。

牛糞や鶏糞を使わない自然農法を実践していますが、馬糞なら使える可能性があるのでチャレンジしてみたいです。また、スペルト小麦という、古代小麦で食物アレルギーが出にくい小麦の栽培もしてみたいと考えています。

（これから就農を目指す人へのアドバイス）

農業は黙々とした単純作業に思われがちですが、思っているよりずっとアカデミックな仕事です。農作業は天候に左右され、作物の生育は待ってはくれないので、瞬発力が必要だと思います。

やりたいことは
全部やる!



寺嶋 崇さん

【出身地】埼玉県

【就農前の仕事】アパレルメーカー従業員

【就農地】長井市

【就農年度】平成30年度

【経営概要】ミニトマト15a わさび菜15a

以前から宿泊施設や飲食店などの経営に興味があり、そこで自給農作物を使いたいと思ったのが農業を始めるきっかけでした。米、果物が美味しく、災害が少なく、冬は雪が降るところがいいと考え、「新・農業人フェア」に参加し、短期体験後に長井市での就農を決めました。

もともと農業には可能性を感じていたので、就農してからの大きなギャップは感じませんでしたが、機械の値段が驚くほど高く、初期投資費用は必要だと痛感しました。また、研修先と自分の畠との土壌条件が違い、水分調整にはとても苦労しましたし、市場出荷の価格が高い時期に、直売に時間をとられて良い品を大量出荷できなかったのは苦い経験です。

農業は決して孤独な作業ではなく、先輩方の指導や地域の

付き合いなどがとても大切です。一方で何事も誘惑に負けない強いメンタルも必要だと思いました。

目標は、「指標通りに収穫量をあげる」、「宿泊施設を運営する」「法人化して従業員に給料をたくさん払う」、「関東圏にも圃場を持つ」などたくさんあり、夢の実現に向けて頑張っていきます。

これから就農を目指す人へのアドバイス

本当に「やりたい」と思う気持ちがないと続かないで、「どこで」、「なにを」より前に、農業に対してのプレーンな目標が必要だと思います。また、半年分の生活費くらいの資金を事前に準備しておきましょう。

イザ! 農業の世界へ

清野 将政さん 清野 幸子さん

【出身地】宮城県仙台市

【就農前の仕事】夫：電気通信工事業 妻：専業主婦

【就農地】大江町

【就農年度】夫：令和元年度 妻：令和2年度

【経営概要】すもも50a ラ・フランス30a

稻作50a



妻が以前から家庭菜園をしていて、「農業をやりたい」と言われたのをきっかけに、夫婦一緒に農業をするのもいいな、と考えるようになりました。「新・農業人フェア」に参加し、山形県のブースでおしんの会の話を聞いて、その後短期体験プログラムを2回受け、山形での就農を決めました。研修先の園地で採れたての果物を食べ、思っていたよりずっと甘くておいしいことに驚き、果樹の栽培をしようと考えました。

実際に就農してみると、会社員時代とは違い、自分で計画を立て作業を進めることの難しさを感じました。作業が大変な分、収穫や出荷の喜びはひとしおで、「美味しいかった」と言われることに農業の魅力を実感しています。

また、大江町の方々は移住者にとても親身になってくれて、色々と教えてもらえることにも、地域の温かみを感じています。

作物は時期を待ってはくれません。まだわからないことが多く思うように作業が進まないこともありますですが、日々の勉強を欠かさず、良い作物を作っていくたいと思っています。

これから就農を目指す人へのアドバイス

地域の人とのつながりを大切のこと。地域に溶け込む努力をすることがとても大切です。また、「農業ならできるかも」という気持ちでは絶対続かないでの、ぜひ「農業がやりたい!」という強い気持ちで臨んでほしいと思います。



就農前の心構えを チェックしましょう

「山形県で農業を始めたい」と考えている皆さん。農業は大変やりがいのある素晴らしい職業ですが、誰でもできる簡単な仕事ではありません。農業経営者になるためには強い意志、経営能力、体力、コミュニケーション能力などの資質が必要なのです。



なぜ農業をやりたいのですか? 強い意志はありますか?

「田舎暮らしがしたい」「自然とふれあいたい」「おいしいものが食べたい」など、願望だけで農業を始めようとしていませんか?「会社勤めより楽そう」などの現実逃避はもってのほかです。絶対農業をするという強い意志がなければ、農業経営は続けられません。



熱意・計画性・行動力・忍耐力はありますか?

きちんと経営計画を立て目標に向かって努力する熱意と行動力、そして黙々と同じ仕事をこなす忍耐力はありますか?飽きっぽい人にとって、農業は難しい職業と言えます。職人気質で徹底してやり抜く性格は、農業で成功する重要な要素となります。



農業のリスクや厳しさを知っていますか?

「農業は、自分の努力次第でいくらでも儲けられる。」といいますが、収入の保証はないのです。自然災害や異常気象による収量の減少・品質の低下、生産物が売れないなどのリスクもあります。



家族の理解と協力が得られますか?

新たに農業を始めると、居住環境の変化や収入減少による家計のやりくりなど、生活環境が大きく変わります。また、果樹や野菜、花などの園芸作物の場合、労働力の確保が大きな問題となるため、家族の理解と協力を得ることが必須条件になります。



経営が軌道に乗るまでの資金と精神力がありますか?

安定した収入が得られるようになるまでには長い時間がかかるので、当面の生活費や運営経費を確保する必要があります。「住宅ローンがある」ような場合、ローンが払えなくなりかねません。思うように事が進まずストレスがたまる場合も多く、強い精神力が求められます。



地域の人と仲良くつきあえますか?

農業を始めるには、地域の人達の協力が不可欠です。地域に溶け込み、地域の人達と深く、親しくつきあうことが必要です。

一口メモ

やまがた農業支援センターは、農業経営基盤のない、非農家出身の農業参入者を支援する相談窓口・研修機関です。

農地等の農業経営基盤がある方（農家の子供など）を支援する相談窓口・研修機関は、山形県立農林大学校となります。



研修の流れ 【独立就農者育成（交付金型）】

公益財団法人やまがた農業支援センターでは、農業経営に必要な資産（農地や農業用機械、作業小屋やビニールハウス等の施設他）を持っていない新規参入者を対象に、農業研修を行っています。

就農相談



センター窓口や、「新・農業人フェア」等で相談に応じています。希望地域や希望作物があれば、農業短期体験に進むことができます。

農業短期体験



農業が本当に自分に合っているのか確認するための短期研修です。最初の希望作物のほかに、複数の作物の栽培体験を行うとよいでしょう。4月から2月まで、それぞれの季節での体験をお勧めします。体験先の農業者との相性を確認することもでき、受け入れ先の目星をつけるよい機会です。

長期研修



①長期研修への応募

就農相談と農業短期体験等を通して意思が固まった方は、長期研修に応募します。研修期間は基本2年で、センターでの募集は原則2月に行います。就農時に50歳未満の方が対象になります。

②研修先の農業経営者の決定

希望する作物や地域、農業短期体験の結果を踏まえて、実際に長期研修する農家・法人等を決定します。受け入れ先の経営体は、あらかじめ支援センターに登録されている方のみとなります。

③農業次世代人材投資資金（準備型）の申請

農業次世代人材投資資金の交付申請に必要な書類を作成し、交付主体の山形県（各総合支庁農業振興課）に申請します。申請に関する準備会も開催します。

④研修開始

受入農業経営者のもとで実践研修を行います。定期的な集合研修も行います。研修期間は概ね2年です。充実した研修にしましょう。

独立自営就農

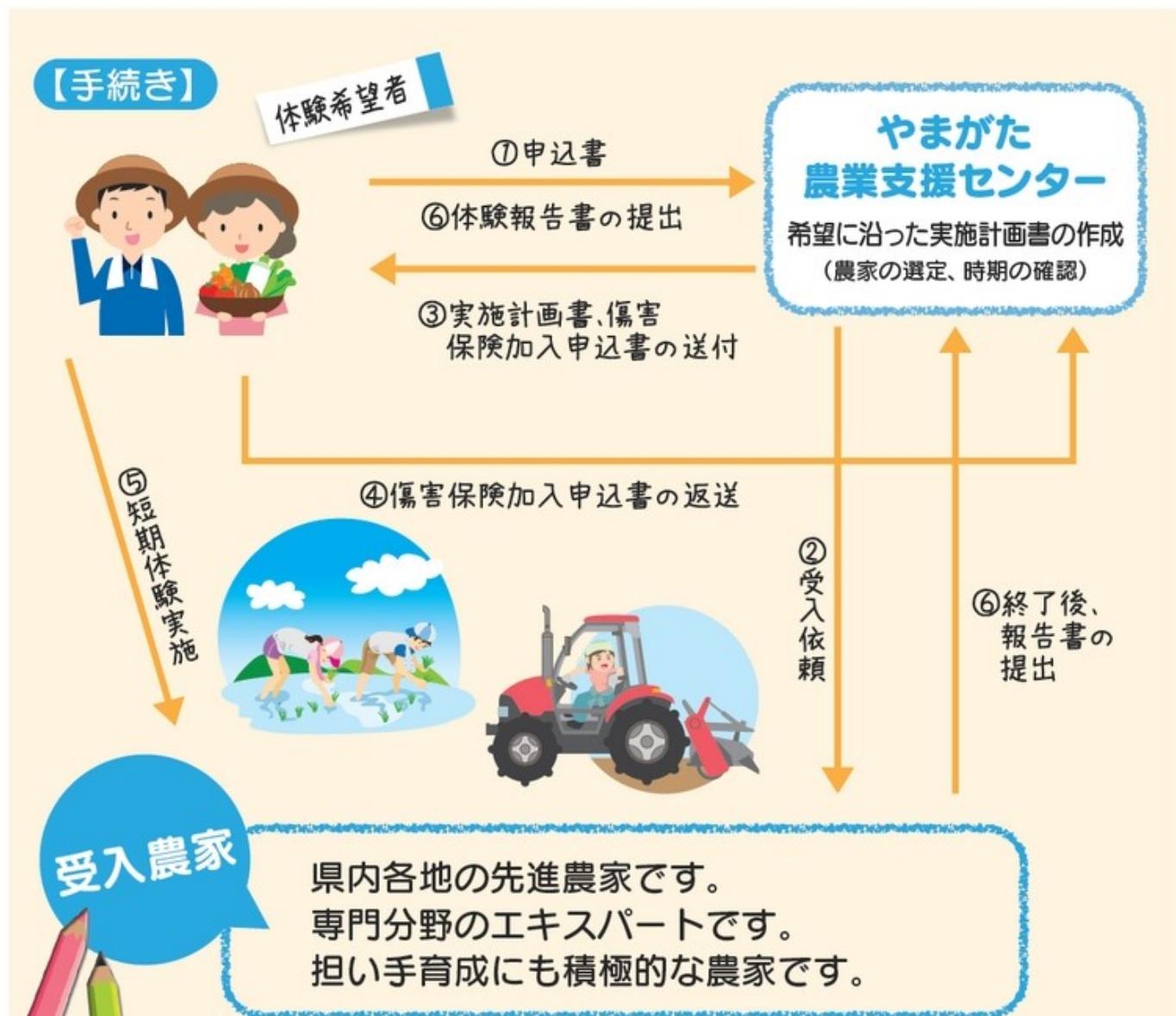
必要な農地等を求め、5年間の就農計画を立てて、認定新規就農者になりましょう。認定新規就農者になるには市町村の認定が必要です。

3

農業短期体験

山形県内の就農を希望される方や農業に関心のある方を対象に、農業への理解をより深めていただくために実施する農作業や農家生活の体験です。希望する時期や地域、作物などにあったプランを立てて実施します。

- 研修先** 山形県内の農業法人、先進農家等
- 体験日数** 年間累計15日を限度として何度でもできます。
- 実施時期** 年間を通して実施しています。(4月~2月末)
土日利用など都合に合わせることができます。
- 参加経費** 無料 ただし、同一農業者で累計9日を超える場合は、1日当たり1,000円を負担金として研修先に支払っていただきます。また現地への往復の旅費と研修先に宿泊できない場合の宿泊費は自己負担になります。
- 保険** 当センターで傷害保険に加入します。



長期研修（先進農家研修）

山形県内で独立就農を目指す方々を対象にした、優れた知識・技術を持つ農業法人、先進農家の実践研修を実施しています。この研修を通じ、就農に必要な栽培技術や経営のノウハウを習得することができます。

また、農業支援センターや農林大学校が企画する集合研修を合わせて実施し、栽培技術や施肥設計、販売戦略などに関する基礎知識を学びます。

独立就農者育成研修事業(交付金型)

○国の「農業次世代人材投資資金（準備型）」の交付を受けながら行う研修です。

- ・研修は、やまがた農業支援センターが指定する受入農業経営者のもとで行います。
- ・研修時間は年間1200時間以上、2000時間以内となります。
- ・研修では、技術や知識の習得に合わせて、仲間づくりを進めます。

●研修期間

1年以上2年以内

●人 数

20名程度／年

●研修開始時期

原則4月

●交付金の額

年間150万円以内

●対象者

就農予定時50歳未満

*採択には一定の要件があります。

■研修終了後、1年内に就農（独立自営就農・雇用就農）しない場合や、交付期間の1.5倍または2年間のいずれか長い期間就農しない場合は、受け取った交付金の全額を一括返還しなければなりません。

例) 1年間研修の場合は2年以上就農、2年間研修の場合は3年以上就農

※独立就農者育成研修事業には、就農時50歳以上の方を対象にした山形県独自の支援事業もあります。対象者は若干名で、本気で地域農業の担い手になる、強い意欲ある方を支援するものです。

一口メモ

新規就農するには、上記研修事業のほか、各市町村が募集する「地域おこし協力隊」の農業研修生になって農業技術を学ぶ方法があり、市町村によってはこちらを積極的に活用しているところもあります。

また、農業法人等への雇用就農や研修後の独立就農を促進するため、新規就業者に対して行う実践研修を支援する「農の雇用事業」もあります。

自分に合った“新規就農への道”を検討しましょう。



5

長期研修中の心構え

長期研修に入ったら、毎日のように、受入農家で研修することとなります。慣れない農作業で大変でしうが、研修期間はあつという間に過ぎていきますので、修了後にきちんと農業を開始できるよう以下の点に注意しながら研修しましょう。

1 技術の習得

栽培技術、施肥設計、機械の操作、ハウスの建て方など、習得すべき技術や知識を箇条書きし、受入農家等に指導を仰ぐようにします。指導内容はきちんと記録し、何度も同じことを聞かなくていいよう心がけましょう。

2 知識の習得

経営管理、労務管理、販売管理など農業経営全般の知識を吸収してください。支援センターや農林大学校の研修には必ず参加しましょう。

3 お金の確保

初期投資や運転資金不足に備え、各種制度資金等の情報を収集しましょう。経営・生活の両面の支出を抑えるノウハウを学びましょう。

4 農地・施設等の確保

就農予定の市町村の下限面積を確認し、農地の目星をつけておきましょう。併せて農作業小屋、農業機械等の目星も付けておきましょう。

5 人のつながり

研修期間中に出会った人たちとのつながりを大切にしてください。受入農家の方と一緒に地域行事に参加するなど、積極的に交流すると、農地の紹介など思わぬいい話が転がり込んでくることもあります。

辛口チェックポイント



- ♥一番重要なことは、受入農家等との信頼関係を構築することです。勤務時間の厳守や、朝晩のあいさつ、指示を受けた場合の返事など、基本的なマナーを守りましょう。
- ♥自分の考えもあるかと思いますが、「師匠」であるということを忘れず、素直な心で指導を受けることが基本条件です。さじを投げられないよう、まじめに研修しましょう。
- ♥研修期間中は、半年ごとに研修状況報告を知事に提出しなければなりません。きちんと作業日誌をつけましょう。詳細に記録した作業日誌は、のちにあなたの宝物になります。もちろん報告期限はきっちり守りましょう！



「認定新規就農者」になりましょう ～あなたも「新・やまがた農業人!」～

「認定新規就農者」とは、農業経営開始から5年後の目標を示した「青年等就農計画」を市町村に提出し、「地域農業の新たな担い手」として認定された新規就農者のことと言います。

国・県・市町村などの行政機関や農業関係機関は、認定新規就農者に対して、集中的に支援措置を講じます。

対象者

新たに農業経営を営もうとする青年等で、
以下に該当する方です。

- ①青年（原則18歳以上45歳未満）ただし、市町村長が認める場合には50歳未満
- ②特定の知識・技能を有する中高年齢者（45歳以上65歳未満）
- ③上記の者が役員の過半数を占める法人

青年等就農計画の作成、申請・認定の流れ

- ①青年等就農計画の作成

*県総合支庁農業技術普及課から指導・助言を受け、5年後の農業経営構想、作物ごとの所得目標などをまとめます。長期研修期間中から、普及課を訪問し、経営担当の普及指導員の指導を受け、時間をかけて作成しましょう。

*その後、市町村の担当職員に確認してもらいましょう。

- ②青年等就農計画の完成

- ③農業経営を行う市町村に、青年等就農計画の認定申請

- ④市町村が、青年等就農計画の審査を実施

- ⑤青年等就農計画の認定

*就農後5年以内に、認定新規就農者にならないと、交付金を返還しなければなりません。早期認定を目指しましょう。

認定新規就農者のメリット

- ①関係機関から濃密な指導・助言を受けることができます。

- ②農業次世代人材投資資金（経営開始型）の助成を受けることができます。

*年間150万円以内の交付金を、最高5年間受け取ることができます。

*交付期間と同期間以上、農業経営を継続する必要があります。

- ③青年等就農資金等、有利な資金の借り入れができます。

■新規就農定着サポート事業 (公益財団法人 やまがた農業支援センター)

農業経営基盤をもたず、新たに農業経営を開始した認定新規就農者（法人を除く）又は独立就農者育成研修（県支援型）修了者に対し、新規就農定着サポート事業を行っています。

◆ 営農費用の一部助成

営農開始時の年齢が満50歳以上の認定新規就農者等に対し、営農費用（種苗費、農薬費、肥料代等）の一部を助成します。

- 助成金額 年額36万円と助成対象経費のいずれか低い額
- 助成期間 最長5年間

◆ 定着支援アドバイザーの設置費用の助成

認定新規就農者等に対し日常の営農活動及び経営等についてアドバイスを行う「定着支援アドバイザー」の設置経費の一部を助成します。

- 助成対象経費 定着支援アドバイザー設置経費
- 助成期間 2年間
- 助成金額
 - [1年目] 年額10万円と活動時間1時間あたり2千円で計算した額のいずれか低い額
 - [2年目] 年額5万円と活動時間1時間当たり2千円で計算した額のいずれか低い額

■青年等就農資金 (日本政策金融公庫)

- 対象者 認定新規就農者
- 資金の使い道 「施設・機械」「果樹・家畜等」「借地料などの一括支払い」「その他経営費」
- 融資条件
 - 返済期間：17年以内（うち据置期間5年以内）
 - 融資限度額：3,700万円
 - 金利：無利子、実質無担保、無保証人
- 取扱金融機関 日本政策金融公庫（農協、銀行等による転貸しも可）



やまがた農産物マップ

主な産地

庄内地方



最上地方



置賜地方



村山地方



山形県の各地方の気象特性

庄内地方

春から秋は温暖。冬はふぶくが、沿岸部の降雪量は多くない。

最上地方

夏は気温が高いが夜は涼しく、霧の発生も多い。冬は平地でも豪雪地。

村山地方

夏の気温は高いが昼夜の温度差が大きい。降水量、降雪量は少ないが、北部は豪雪地。

置賜地方

夏の気温は高いが昼夜の温度差が大きい。冬は豪雪地。

山形県は東北地方の日本海側に位置し、全国第9位の93万haの県土面積を有します。その地勢や江戸時代の幕藩体制のなごりから、方言や食べ物、文化も少しずつ異なり、南から置賜（おきたま）、村山（むらやま）、最上（もがみ）、庄内（しょうない）の4つの地域に大きく区分されています。

地域農業にはそれぞれの特徴がありますが、やまと農業支援センターでは、地域性を踏まえながら、独自に山形県の主な農作物38品目を選定し、「技術力」「資本力」「労働力」を始めとした様々な項目ごと、特徴が一目でわかる5段階表示を行いました。皆さんが新たにチャレンジしたい農作物を選定する際の参考資料としていただければ幸いです。

また、末尾には、山形県が平成29年3月に発表した「トップランナーの営農類型経営指標一覧」を一部抜粋し掲載しています。主たる経営者の農業所得が、他産業従事者並みの400万円以上となる農家・農業法人の経営指標ですので、営農類型を組み立てるヒントになることでしょう。

資料の見方

■が左側にある作物ほど、初心者が取り組みやすい作物です。

【技術力】	栽培技術の難易度を5段階で表示。右側ほど高い技術力を要する。
【資本力】	設備投資等の初期投資の大きさを5段階で表示。右側ほど多くの初期投資が必要。
【労働力】	投下する労働時間の大小を5段階で表示。右側ほど労力を要し、人件費も多く必要。
【販売力】	生産物販売の難易度を5段階で表示。右側ほど販路開拓などが難しく高い販売力が必要。
【収益性】	面積あたりの農産物の売り上げから必要経費を引いた所得の高低。販売単価が高く、経費が低ければ収益性は高くなる。労働生産性を示すものではない。
【気候リスク】	ある程度長い期間の気温や降水量など気候条件の影響を5段階で評価。右側が影響大。
【排水性】	その作物を栽培する土壤の排水性について5段階で記載。多くの野菜や果樹は、排水が良い畑が必要で、水田転作の場合等は排水対策が必要になる。
【産地】	県内の4地域で表示（村山・置賜・最上・庄内）。すべての地域の場合は県内全域と表示。
【施設・機械】	生産を始めるにあたり、最低限必要な施設や機械を具体的に掲示。
【栽培期間】	1年の中での栽培期間（播種・定植・管理作業・収穫など）を表示。収穫期間を特記。

水稻



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域							
【施設・機械】	トラクター、田植え機、防除機、コンバイン、育苗ハウス、乾燥調製施設、作業舎、軽トラック 等							
【栽培期間】	3月下旬～10月下旬 (うち収穫期間) 9月上旬～10月中旬							

ポイント

水稻は、需要に応じ、主食用米、加工用米、飼料用米などの種類がある。

山形県は技術水準が高く、10aあたりの収量で常に全国上位であり、極端な気象災害年は例外として収量、品質が安定している。「はえぬき」、「つや姫」、「雪若丸」などが代表的な「うるち米」として栽培されている。

水稻栽培の収益性は低下傾向にあり、生産コスト削減と、ブランド化による販売力の向上が課題になっている。栽培（経営）の特性によりイニシャルコストが大きく、新規参入者にはハードルが高い。

大豆



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域							
【施設・機械】	トラクター、播種機、防除機、汎用コンバイン、乾燥調製施設、作業舎、軽トラック 等							
【栽培期間】	5月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 10月上旬～11月上旬							

ポイント

本県では水田転作地で栽培される事例がほとんどである。そのため、排水性の改善と、圃場の固定化に伴った連作障害が課題となっている。

収益は低く、大豆経営は経営所得安定対策等の制度によって維持されていると言っても過言ではない。収益性の向上のため、「紅大豆」、「青大豆」等のブランド化を目指す事例がある。

栽培は、農業法人もしくは任意組織による大規模栽培が多い。イニシャルコストが大きいことから新規参入者にはハードルが高い。

そば



【技術力】	(易)							(難)
【資本力】	(小)							(大)
【労働力】	(小)							(大)
【販売力】	(低)							(高)
【収益性】	(低)							(高)
【気候リスク】	(小)							(大)
【排水性】	(低)							(高)
【産地】	県内全域							
【施設・機械】	トラクター、播種機、汎用コンバイン、乾燥調製施設、作業舎、軽トラック 等							
【栽培期間】	7月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 10月上旬～10月下旬							

ポイント

本県では水田転作地で栽培される事例が多い。排水が良好であれば、粗放的に栽培することが可能である。

収益は低く、経営所得安定対策等の制度によって維持されていると言っても過言ではない。実需者からは「畑地そば」を求められることが多く、代表的な産地は畑地が多い。また、県内では「そば街道」が知られており、そば消費は安定している。

栽培は、農業法人もしくは任意組織による大規模栽培が多い。イニシャルコストが大きいことから新規参入者にはハードルが高い。

ホールクロップサイレージ



【技術力】	(易)							(難)
【資本力】	(小)							(大)
【労働力】	(小)							(大)
【販売力】	(低)							(高)
【収益性】	(低)							(高)
【気候リスク】	(小)							(大)
【排水性】	(低)							(高)
【産地】	県内全域							
【施設・機械】	トラクター、播種機、汎用コンバイン、乾燥調製施設、作業舎 等							
【栽培期間】	4月下旬～9月上旬 (うち収穫期間) 8月下旬～9月上旬							

ポイント

飼料用専用品種を使用する。直播することにより、さらに省力化が可能になる。

収穫は畜産コントラクター(飼料生産受託組織)等が行う場合多いため、導入に際しては栽培前の調整が必要になる。イニシャルコストが大きいことから新規参入者にはハードルが高い。

とうとう (雨よけテント栽培)



【技術力】	(易)							(難)
【資本力】	(小)							(大)
【労働力】	(小)							(大)
【販売力】	(低)							(高)
【収益性】	(低)							(高)
【気候リスク】	(小)							(大)
【排水性】	(低)							(高)
【産地】	県内全域							
【施設・機械】	雨よけテント、防除機、草刈機、高所作業車、作業舎、軽トラック 等							
【栽培期間】	周年 (うち収穫期間) 6月上旬～7月中旬							

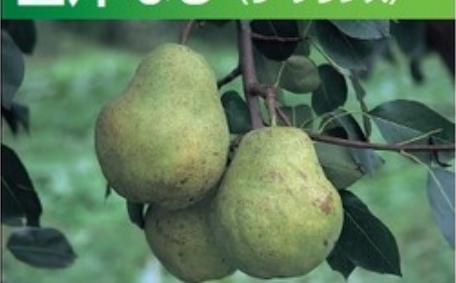
ポイント

本県は日本一のさくらんぼ生産県で、全国の約79%の生産量を上げている。主力品種は「佐藤錦」、「紅秀峰」等。

加温栽培や無加温栽培の作型を組合せた経営が多い。

栽培の前提条件として雨よけテントの設置が必須であり、収穫調整作業を中心に労力不足が産地の大きな課題となっている。そのため、棚仕立てやY字仕立てなどの軽労化が試みられており、新規に栽培する場合は考慮すべきポイントになっている。

西洋なし (ラ・フランス)



【技術力】	(易)							(難)
【資本力】	(小)							(大)
【労働力】	(小)							(大)
【販売力】	(低)							(高)
【収益性】	(低)							(高)
【気候リスク】	(小)							(大)
【排水性】	(低)							(高)
【産地】	村山、置賜地域							
【施設・機械】	防除機、草刈機、高所作業車、作業舎、予冷庫、(選果施設)、軽トラック 等							
【栽培期間】	周年 (うち出荷期間) 11月上旬～12月下旬							

ポイント

本県は全国の生産量の約66%を占める主産県である。主力品種は「ラ・フランス」の他、「メロウリッチ」等の品種を組み合わせて普及が図られている。

予冷、追熟のポストハーベストを必要とするため、施設利用の共同出荷の形態が多いが、個人出荷の場合、単独で予冷庫を設置する必要がある。

栽培は棚仕立てや自然樹形栽培になるが、露地栽培のため、どちらも風害、雹害、雪害等の気象災害が発生することがある。

りんご



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)

【産地】 村山、置賜地域

【施設・機械】 防除機、草刈機、高所作業車、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等

【栽培期間】 周年 (うち収穫期間) 8月下旬~11月下旬

ポイント 本県は全国4位の主産県である。主力品種は「ふじ」であるが、「つがる」、「シナノスイート」の他、オリジナル品種として「ファーストレディ」や「秋陽」も栽培されている。
りんごは昔から栽培されていた樹種だったこともあり老木が多いため、計画的な改植をすすめている。
導入に当たっては、品種選択が重要であり、栽培面では適切な管理作業の実施や適期防除などがポイントになる。
選果施設の利用を前提にした共同出荷の他、個人販売の比率も高い。

もも



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)

【産地】 村山地域

【施設・機械】 防除機、草刈機、高所作業車、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等

【栽培期間】 周年 (うち収穫期間) 7月中旬~9月下旬

ポイント 本県は全国4位の主産県である。全国の主産地に引き続き出荷される晚生産地として、近年、再導入する事例が多くなっている。品質が優良な晩生品種の開発が進んだことや非破壊の選果機(原型を保ったまま、大きさ、色、香り、糖度などを測定する)により安定した品質の果実が流通されることになった等の理由による。そのため、導入は選果機が必須条件になっている。
導入に当たっては、品種選定や管理作業の実施は重要である。

すもも



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)

【産地】 村山地域

【施設・機械】 防除機、草刈機、高所作業車、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等

【栽培期間】 周年 (うち収穫期間) 7月上旬~9月下旬

ポイント 本県は全国4位の主産県であり、ももと同様に、主産地に引き続き出荷する晚生産地として特徴がある。
大玉で優良な晩生種が育種されたことにより、栽培が伸びている樹種である。

ぶどう (デラウェア)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)

【産地】 村山、置賜地域

【施設・機械】 雨よけハウス、(加温ハウス)、防除機、草刈機、(冷蔵庫)、作業舎、軽トラック 等

【栽培期間】 周年 (うち収穫期間) 7月上旬~8月下旬

ポイント 露地栽培の出荷時期は8月中旬からであるが、加温ハウスで栽培することにより7月上旬からの連続出荷が可能である。
また、雨よけ栽培がほとんどであることから、防除回数を大幅に減らすことができる。
最近は、高齢化による生産者の減少や、販売環境が改善していることから、収益性は回復している。
栽培施設に関してコストが嵩むため、計画的に導入するようにする。

ぶどう (大粒種)



【技術力】	(易)	難
【資本力】	(小)	(大)
【労働力】	(小)	(大)
【販売力】	(低)	(高)
【収益性】	(低)	(高)
【気候リスク】	(小)	(大)
【排水性】	(低)	(高)
【産地】	村山、置賜、庄内地域	
【施設・機械】	雨よけハウス、(加温ハウス)、防除機、草刈機、(冷蔵庫)、作業舎、軽トラック 等	
【栽培期間】	周年 (うち収穫期間) 7月中旬～10月下旬 (12月中旬)	

ポイント 需要の高い「大粒種」の栽培が増加しており、中でも食味の優れる「シャインマスカット」は消費者の人気が高く、本県でも栽培が増加している。

栽培については、近年、短梢仕立てが開発され、以前に比べ品質は安定するようになった。

また、冷蔵と水分補給による長期貯蔵方法が確立され、需要の幅が広がっている。

トマト (ハウス夏秋栽培)



【技術力】	(易)	難
【資本力】	(小)	(大)
【労働力】	(小)	(大)
【販売力】	(低)	(高)
【収益性】	(低)	(高)
【気候リスク】	(小)	(大)
【排水性】	(低)	(高)
【産地】	県内全域	
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等	
【栽培期間】	3月下旬～12月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～11月下旬	

ポイント ハウス栽培を前提とし、設備投資が必要である。水稻育苗ハウスの後地利用も可能であるが、経営的な面白味に欠けるため、専用ハウスとするべきである。技術面においてはマニュアル化されており、平均的な経営目標に達することは可能である。さらに一步進んだ栽培を行うためには栽培中～終期の収量を増加させるため、肥培管理技術の向上を目標とする。

労力面では収穫、選果調整作業が多大であることから、綿密な労務管理が必要である。既存産地では共同選果施設を利用することで経営成果を上げている。

ミニトマト (ハウス夏秋栽培)



【技術力】	(易)	難
【資本力】	(小)	(大)
【労働力】	(小)	(大)
【販売力】	(低)	(高)
【収益性】	(低)	(高)
【気候リスク】	(小)	(大)
【排水性】	(低)	(高)
【産地】	県内全域	
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等	
【栽培期間】	3月下旬～12月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～11月下旬	

ポイント トマトの消費拡大の先駆けとなった種類のトマトであり、ハウス栽培を前提とし、設備投資が必要である。技術面においてはマニュアル化されており、平均的な経営目標に到達することは可能である。一步進んだ栽培を行うには、栽培期間中に安定した収量を維持するための肥培管理技術が必要である。

労力面ではトマトの中で、最も収穫、選果調整作業が多大であることから、綿密な労務管理が必要である。

既存産地では共同選果施設を利用することで経営成果を上げている。

中玉トマト (夏秋雨よけ栽培)



【技術力】	(易)	難
【資本力】	(小)	(大)
【労働力】	(小)	(大)
【販売力】	(低)	(高)
【収益性】	(低)	(高)
【気候リスク】	(小)	(大)
【排水性】	(低)	(高)
【産地】	県内全域	
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等	
【栽培期間】	3月下旬～12月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～11月下旬	

ポイント 多様なトマトとして、品種開発の効果もあり消費拡大している。ハウス栽培を前提とし、設備投資が必要である。技術面においては大玉トマトほどの難しさではなく、平均的な経営目標に到達することは可能である。一步進んだ栽培を行うには、栽培期間中に安定した収量を維持するための肥培管理技術が必要である。

労力面では大玉トマトとミニトマトの中間に位置するが、綿密な労務管理が必要である。

きゅうり (露地夏秋栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域					
【施設・機械】	トラクター、防除機、管理機、(選果機)、作業舎、軽トラック 等					
【栽培期間】	5月下旬～10月上旬 (うち収穫期間) 7月上旬～10月上旬					

ポイント
降霜の心配がいらなくなる5月中旬以降に定植を行い、早霜の時期に栽培を終了する作型である。
露地栽培のためイニシャルコストは低い反面、強風等の被害を被りやすい。
栽培は比較的容易な野菜ではあるが、栽培期間中に梅雨期を経過するため、綿密な肥培管理を要する。
労力面では、朝晩2回の収穫作業が毎日継続する。また産地によっては共同選果機を活用して省力化している場合もあるが、個人選別の場合は、さらに労働時間が長くなる。労働時間に比例して、安定した収益性が期待できる。

きゅうり (半促成栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	村山、置賜地域					
【施設・機械】	栽培ハウス、暖房機、トラクター、管理機、防除機、(選果機)、作業舎、軽トラック 等					
【栽培期間】	1月下旬～7月下旬 (うち収穫期間) 4月上旬～7月中旬					

ポイント
栽培前半に暖房を行い、需要が拡大する春季を中心に収穫を行う栽培である。
施設栽培のため自然災害の影響は少ないが、施設設置に資本力を要する。
栽培は、肥培管理について、やや高い技術力を要するが、最近は、収益性が安定している。
労力面では、朝晩2回の収穫作業が毎日継続する。また産地によっては共同選果機を活用して省力化している場合もある。

きゅうり (抑制栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	村山地域					
【施設・機械】	栽培ハウス、補助暖房機、トラクター、管理機、防除機、(選果機)、作業舎、軽トラック 等					
【栽培期間】	7月下旬～12月下旬 (うち収穫期間) 9月上旬～12月中旬					

ポイント
栽培後半に暖房を行う栽培である。前作と組合せて施設を有効に利用する。
施設栽培のため自然災害は少ないが、施設設置に資本力を要する。
栽培は、肥培管理について、やや高い技術力を要するが、収益性は不安定である。
労力面では、朝晩2回の収穫作業が毎日継続する。また産地によっては共同選果機を活用して省力化している場合もある。

すいか (トンネルつる引き栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	村山地域					
【施設・機械】	トラクター、マルチヤー、防除機、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等					
【栽培期間】	4月中旬～9月上旬、10月 (うち収穫期間) 7月中旬～8月下旬					

ポイント
品種ではなく、産地ブランド化している数少ない野菜類の一つ。そのため、個人販売では、直売以外での有利販売は難しく、生産組織に所属するのが一般的である。
トンネル栽培が主体で、共同選果施設を利用することによって、大規模化が進んだ。

露地ネットメロン (大型トンネル栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	庄内地域						
【施設・機械】	トラクター、マルチヤー、防除機、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	3月下旬～9月上旬 (うち収穫期間) 7月中旬～8月下旬						

ポイント

本県では砂丘地帯で産地化が進んだ。

近年は消費量が減退していることから、栽培が伸び悩んでいる。

本県は大型トンネル栽培の他、ハウス早熟栽培も行われ、6月中旬から収穫が開始される。

パプリカ (ハウス夏秋栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	庄内、最上地域						
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 7月中旬～11月上旬						

ポイント

本県では遊佐町で主産地が形成されている。

県内では秋冷が早いため、販売目的で生産する場合は、ハウス栽培が前提条件になる。

栽培期間、収穫期間はハウストマトとほぼ同様。技術面では、取り組みやすい種類に入る。

ピーマン (露地夏秋栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	最上地域						
【施設・機械】	トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～10月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～10月上旬						

ポイント

栽培初期にトンネル栽培する栽培方法。栽培は比較的容易に行うことができる。

県内では最上地域の水田転作作物として栽培が行われている。

なお、県外ではハウス栽培による大産地が形成されているため、販売は工夫を要する。

ししとう (ハウス夏秋栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	最上地域						
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 6月中旬～10月上旬						

ポイント

収穫に多大な労力を要する種類のため、労力に見合った栽培面積にする。

県内外に大産地はないため、収益面からは安定した栽培ができる。

えだまめ



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域						
【施設・機械】	トラクター、管理機、防除機、移植機、収穫機、(選別施設)、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～10月中旬 (うち収穫期間) 7月上旬～10月上旬						

ポイント

品種を組合わせることにより、長期間出荷することができる。「だだちゃまめ」のように、ブランド化した産地もある。

えだまめは水田転作で栽培している事例がほとんどであり、排水対策を十分行うことが前提である。

収穫～出荷に際しては多くの労力を必要とするため、機械や施設を利用できない生産の場合は、著しく収益性が劣る。

さといも



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域						
【施設・機械】	トラクター、管理機、マルチヤー、掘り取り機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～10月中旬 (うち収穫期間) 9月上旬～10月上旬						

ポイント

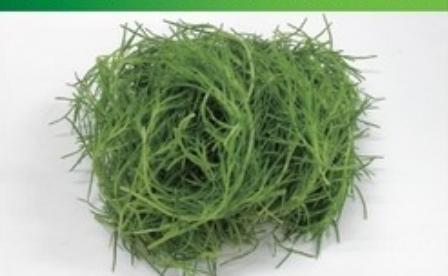
初心者でも安心して栽培が可能な種類である。

水田転作で栽培する事例が多く、9月の需要期に合わせて早掘りする産地もある。

土もの特有の労働強度の高い作業があるため、計画的に機械を活用した栽培が必要である。

近年は、栽培者の減少と根強い需要に支えられ、収益性は向上している。

おかひじき (ハウス雨よけ栽培等)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	村山、置賜地域						
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、(予冷施設)、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	3月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 5月上旬～10月下旬						

ポイント

アカザ科に属する伝統野菜である。

栽培技術の開発により、ほぼ周年生産が可能になっているが、秋季以降の作季の場合は、電照施設が必要になる。また、マイナー野菜のため、種子の流通量は少なく、栽培者には前年度からの準備が必要である。

播種から収穫までは、「ほうれんそう」と同じく、約35日～45日であり、播種期をずらし、連続して播種を行う。

葉物野菜のため、予冷施設が必須条件になっている。

にら



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	最上地域						
【施設・機械】	(トラクター)、管理機、防除機、(予冷施設)、結束機、袋詰め機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	周年 (うち収穫期間) 4月下旬～10月下旬						

ポイント

県外の主産地とは違い、本県は夏にら、約3年の連年栽培を特徴とする、日本一の露地にらの産地を形成している。

栽培初年度は株養成期間、収穫は栽培2、3年目に行う。

にらは低資本、軽作業を特徴とするが、多大な労力を必要とすることから、調整作業は可能な限り機械化を行い収益性を高める工夫が必要である。

葉物野菜のため、予冷施設が必須条件になっている。

アスパラガス (露地、全期立茎栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	最上、置賜地域						
【施設・機械】	トラクター)、(予冷施設)、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	周年 (うち収穫期間) 5月上旬～9月下旬						

ポイント

長期どりの作型の一つ。アスパラガスは技術開発が進むに伴って、飛躍的に収益性が向上し、今では露地野菜の中で最も有望な品目になった。

栽培初年度は株養成期間、収穫は2年目から開始し、以降、株管理を適正に実施すれば、少なくとも10年間は収穫が継続できる。産地では、共同選別・調整施設利用により大規模経営となっている。葉物野菜のため、予冷施設が必須条件になっている。

ねぎ (夏ねぎ、秋冬ねぎ)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	最上、村山、庄内地域						
【施設・機械】	トラクター、管理機、防除機、収穫機、調整機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月上旬～11月上旬 (うち収穫期間) 7月下旬～11月上旬						

ポイント

収穫機、調整機の開発により大規模経営ができるようになり、有望な品目となった。本県では水田転作により産地化が進んでいる。代表的な作型は、夏ねぎ、秋冬ねぎであるが、ハウス軟白栽培も取り組まれている。

産地では、共同選別・調整施設利用により大規模経営となっている。

夏ねぎは、予冷施設が必須条件になっている。

セルリー (春どり、秋どり)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	村山地域						
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	1月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 5月上旬～6月上旬、9月下旬～11月上旬						

ポイント

本県では、2作型が一般的。

特に秋どりについては夏季を経過する栽培のため、綿密な肥培管理を必要とする。

ほうれんそう (冬期無加温ハウス栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	村山地域						
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	9月中旬～4月上旬 (うち収穫期間) 11月中旬～4月上旬						

ポイント

冬期間に本県において無加温栽培が可能な野菜の代表として「ほうれんそう」を例示した。

さらに低温伸長性がある野菜としては「こまつな」、「みずな」、「小かぶ」、「ラディッシュ」、「茎立ち類」などがある。

病害虫が少ない時期であることから、栽培が極めて容易であり、入門者に適している。

だいこん (夏、秋だいこん)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域 (夏季冷涼地域)						
【施設・機械】	トラクター、管理機、防除機、収穫機、調整機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～11月上旬 (うち収穫期間) 7月下旬～11月上旬						

ポイント 夏季冷涼な地域（高原等）に適し、品種を組合わせることにより長期間生産することが可能である。近年、重量野菜であることから、産地が減少しており、以前に比べたら収益性は大幅に回復している。

段まきにより連続収穫が可能になるが、大規模経営の場合は、機械化が必須条件になっている。

たらの芽 (ハウス促成栽培)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域						
【施設・機械】	促成ハウス、(トラクター)、(管理機)、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月下旬～11月下旬 (促成期間) 11月上旬～5月上旬 (収穫期間) 11月下旬～5月上旬						

ポイント 大規模な面積で株養成を行い、冬期間に集約的に促成を行う栽培である。養成株の利用期間は概ね5年程度である。本県は日本一のたらの芽産地である。

株養成畑は畠地が適するが、近年は、排水性を高めた水田転作地を活用する事例も増加している。

種苗は一般に流通していないため、産地や栽培者から分譲を受ける必要がある。

わらび



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域						
【施設・機械】	(トラクター)、(管理機)、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	4月上旬～11月下旬 (うち収穫期間) 5月上旬～7月上旬						

ポイント 栽培を開始すれば、通常3年目のシーズンより収穫が始まり、以降、20年以上の連年栽培が可能である。

「わらび」は本格的な山菜の中では、最も消費者に馴染みがあり、手堅い需要が期待できる。

必ずしも収穫することが必須条件の種類ではなく、労力に合わせて行うことも可能である。また、乾燥し易い圃場の場合、品質が低下しやすい欠点があることから注意が必要である。

種苗は一般に流通していないため、産地や栽培者から分譲を受ける必要がある。

トルコギキョウ (夏だし、秋だし)



【技術力】	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
【資本力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【労働力】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【販売力】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【収益性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【気候リスク】	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
【排水性】	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
【産地】	県内全域						
【施設・機械】	栽培ハウス、暖房機、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
【栽培期間】	3月下旬～11月下旬 (うち出荷期間) 7月上旬～11月中旬						

ポイント 本県では、主に秋の需要期に出荷する栽培が多い。

育苗期間が2か月弱と長く、定植から切り花までも3～4か月を要する。

肥培管理について、やや高い技術力を要し、収益性は不安定である。

作季に応じてシェード（日よけ）施設や電照施設により生育をコントロールする必要もある。

比較的多くの労力を要する。

アルストロメリア



[技術力]	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
[資本力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[労働力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[販売力]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[収益性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[気候リスク]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[排水性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[産地]	置賜、庄内地域						
[施設・機械]	栽培ハウス、暖房機、地中冷却施設、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
[栽培期間]	周年 (うち出荷期間) 周年						

ポイント 自家増殖が禁止されているため、種苗は全て購入する必要がある。また、概ね5年で更新が必要であり、コストが嵩む種類である。

夏季の高温、高湿により、切り花の品質が低下しやすく、また生育は不安定になりやすい。そのため、地中冷却装置や、冬期間は暖房装置が必要になる。

本県は切り花の品質が高く、置賜、庄内地域において主産地を形成している。

りんどう (露地栽培)



[技術力]	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
[資本力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[労働力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[販売力]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[収益性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[気候リスク]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[排水性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[産地]	最上、村山地域						
[施設・機械]	トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
[栽培期間]	周年 (うち出荷期間) 7月上旬～10月上旬						

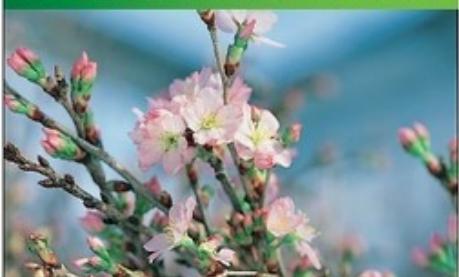
ポイント 転作に適した花きであるが、十分な排水対策を行う必要がある。

冷涼な気象を好み、中山間地域に適した花きである。

定植後、1年間の株養成栽培を行い、その後、概ね5年間の切り花が可能である。

種苗は購入の他、栽培者より種子の分譲を受け、自ら育苗を行うこともできる。購入の場合は、コストが嵩むので、計画的な植栽が必要である。最近は販売環境が安定しており、中山間地域の花きとして再評価されている。

枝物花木 (啓翁さくら、促成)



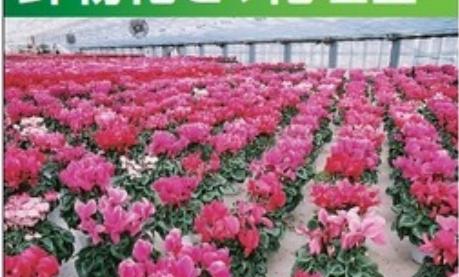
[技術力]	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
[資本力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[労働力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[販売力]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[収益性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[気候リスク]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[排水性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[産地]	村山、置賜地域						
[施設・機械]	促成施設、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
[栽培期間]	周年 (うち出荷期間) 12月中旬～3月下旬						

ポイント 冷涼な気象を好み、中山間地域に適した花きである。

概ね5年間程度の株養成を行った後、切り枝を、冬期間に促成する栽培法に特徴がある。山形県内で技術開発が進んだこともあり、本県は日本一の産地になっている。

種苗は購入の他、栽培者より穂木の分譲を受け、自ら育苗を行うこともできる。

鉢物花き、花壇苗



[技術力]	(易)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(難)
[資本力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[労働力]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[販売力]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[収益性]	(低)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(高)
[気候リスク]	(小)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	(大)
[排水性]	(低)	—	—	—	—	—	(高)
[産地]	県内全域						
[施設・機械]	栽培ハウス、暖房機、防除機、作業舎、軽トラック 等						
[栽培期間]	周年 (うち出荷期間) 周年						

ポイント 種苗のほとんどが購入である。種類を組み合わせ、厳寒期を除き通年出荷する事例が多い。

収益性については、以前ほどの利幅は期待できないため、販売力の向上や高度な安定生産がポイントになっている。

ほとんどの品目で、多大な労力を必要とすることも特徴になっている。

トップランナーの営農類型経営指標一覧（抜粋）

【作成の考え方】

○トップランナー向けの営農類型として、主たる経営者の農業所得が400万円以上となる農家及び農業法人を想定し経営指標を作成した。

【活用上の留意点】

○この経営指標は一定の前提条件における試算値であり、栽培技術レベルや実際の販売単価により、農業所得は大きく変動する。また、10a当たりの経営収支は、各経営指標の経営規模で栽培した場合の目安であり、実際の経営規模により変動する。

※「基幹的従事者」の人数には、「主たる経営者」とそれ以外の家族従事者が含まれる。

No.	営農類型	適応地域				経営規模	農業所得等	主な留意事項等
		村 山	最 上	置 賜	庄 内			
1	さくらんぼ+りんご 【果樹専作】	○		○		経営規模 さくらんぼ = 2.2ha りんご = 0.4ha (育成中園地) = 1.6ha = 0.2ha	主たる経営者の 農業所得 4,009千円 ◇販売金額 19,137千円 ◇農業所得 8,009千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 1,332千円 ・補助的従事者 5人	○さくらんぼは2割、りんごは2割を直売・贈答用で販売
2	さくらんぼ+西洋なし 【果樹専作】	○		○		経営規模 さくらんぼ = 2.3ha 西洋なし = 0.3ha (育成中園地) = 1.8ha = 0.2ha	主たる経営者の 農業所得 4,169千円 ◇販売金額 24,691千円 ◇農業所得 8,169千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 1,547千円 ・補助的従事者 4人	○さくらんぼは3割を直売・贈答用で販売 ○西洋なしは共同選果施設を利用
3	さくらんぼ+もも 【果樹専作】	○				経営規模 さくらんぼ = 2.2ha もも = 0.4ha (育成中園地) = 1.6ha = 0.2ha	主たる経営者の 農業所得 4,547千円 ◇販売金額 21,212千円 ◇農業所得 8,547千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 1,128千円 ・補助的従事者 4人	○さくらんぼは2割、もものは2割を直売・贈答用で販売
4	さくらんぼ+ぶどう+水稻 【果樹+水稻】	○		○		経営規模 さくらんぼ = 2.8ha ぶどう = 0.2ha ぶどう(大粒系) = 0.3ha 水稻 = 0.2ha (ハウス用地) = 2.0ha = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,618千円 ◇販売金額 12,182千円 ◇農業所得 4,618千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 961千円 ・補助的従事者 4人	○さくらんぼは2割、大粒系ぶどうは2割を直売・贈答用で販売 ○水稻部門は3戸で共同作業 ○ぶどうは無加温ハウス栽培のデラウエア、雨除けハウス、短梢栽培のシャインマスカットを組み合せ
5	りんご+すもも+水稻 【果樹+水稻】	○				経営規模 りんご = 3.1ha すもも = 0.8ha 水稻 = 0.4ha (育成中園地) = 1.8ha = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,043千円 ◇販売金額 12,617千円 ◇農業所得 4,043千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 625千円 ・補助的従事者 2人	○果樹は共選・農協出荷 ○水稻は共同乾燥調製施設を利用
6	すいか+水稻 【野菜+水稻】	○				経営規模 すいか = 9.1ha 水稻 = 3.0ha 飼料用米 = 4.2ha (ハウス用地) = 1.8ha = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,024千円 ◇販売金額 33,627千円 ◇農業所得 8,024千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 3,351千円 ・補助的従事者 10人	○すいかは共同選果場を利用 ○米の乾燥・調製は、共同乾燥調製施設を利用

No.	営農類型	適応地域				経営規模	農業所得等	主な留意事項等
		村山	最上	置賜	庄内			
7	きゅうり+水稻+大豆（委託） 【野菜+水稻】	○	○	○		経営規模 きゅうり = 0.4ha 水稻 = 5.0ha 大豆（委託）(ハウス用地) = 3.6ha = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,666千円 ◇販売金額 17,843千円 ◇農業所得 4,666千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 1,740千円 ・補助的従事者 4人	○きゅうりは露地夏秋栽培とし、収穫・出荷調整は個選 ○米の乾燥・調製は共同乾燥調製施設を利用
8	トマト+たらの芽+水稻 【野菜+水稻】		○	○		経営規模 トマト = 0.3ha たらの芽 = 1.8ha 水稻 = 4.2ha (たらの芽養成畑) = 0.4ha (ハウス用地) = 0.3ha	主たる経営者の 農業所得 4,040千円 ◇販売金額 22,409千円 ◇農業所得 8,040千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 928千円 ・補助的従事者 3人	○トマトはハウス夏秋どり栽培、共同選果施設利用 ○たらの芽は養成畑37a、収穫畑は183a ○米の乾燥・調整は共同乾燥調製施設を利用
9	ねぎ+うるい+水稻 【野菜+水稻】		○	○		経営規模 ねぎ = 1.5ha うるい = 0.9ha 水稻 = 4.5ha (うるい1年株) = 1.0ha (うるい株分け用) = 0.1ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 5,642千円 ◇販売金額 29,046千円 ◇農業所得 9,642千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 3,531千円 ・補助的従事者 5人	○ねぎは夏秋どり、秋冬どりとし、収穫・出荷調整は個選機械化体系 ○米の乾燥・調製は共同乾燥調製施設を利用
10	にら+たらの芽+水稻 【野菜+水稻】		○			経営規模 にら = 1.5ha たらの芽 = 1.7ha 水稻 = 4.5ha (にら養成畑) = 0.5ha (たらの芽養成畑) = 0.3ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,857千円 ◇販売金額 30,526千円 ◇農業所得 8,857千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 4,953千円 ・補助的従事者 7人	○にらは春夏刈り、夏刈り、夏秋刈りの3作型とし、収穫3年で株を更新 ○米の乾燥・調製は共同乾燥調製施設を利用
11	アスパラガス+たらの芽+水稻 【野菜+水稻】		○	○		経営規模 アスパラガス = 1.4ha たらの芽 = 1.7ha 水稻 = 5.2ha (アスパラガス養成畑) = 0.1ha (たらの芽養成畑) = 0.3ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,331千円 ◇販売金額 26,015千円 ◇農業所得 8,331千円 ・基幹的従事者 2人 ◇支払労務費 3,592千円 ・補助的従事者 5人	○アスパラガスは共同選果施設利用 ○米の乾燥・調製は共同乾燥調製施設を利用
12	おかひじき+水稻 【野菜+水稻】	○		○		経営規模 おかひじき = 0.5ha 水稻 = 2.9ha 飼料用米 = 1.6ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,331千円 ◇販売金額 14,407千円 ◇農業所得 4,331千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 651千円 ・補助的従事者 2人	○おかひじきは施設で5回作付け
13	りんどう+水稻 【花き+水稻】	○	○			経営規模 りんどう = 0.8ha 水稻 = 3.0ha 飼料用米 = 1.0ha (りんどう養成畑) = 0.2ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,518千円 ◇販売金額 15,546千円 ◇農業所得 4,518千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 1,639千円 ・補助的従事者 5人	○りんどうは山形県オリジナル品種のハイネスシリーズを導入 ○水稻は飼料用米を組合せ
14	ダリア+水稻 【花き+水稻】			○	○	経営規模 ダリア = 0.2ha 水稻 = 4.2ha 飼料用米 = 2.5ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,263千円 ◇販売金額 16,369千円 ◇農業所得 4,263千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 810千円 ・補助的従事者 3人	○ダリアは施設栽培とし、長期出荷 ○水稻作付の一部を飼料用米とし、施設花きと合わせ転作
15	水稻+メロン+ストック 【水稻+野菜+花き】				○	経営規模 水稻 = 4.5ha 飼料用米 = 3.0ha ストック = 0.1ha メロン = 0.4ha (ハウス用地) = 0.1ha	主たる経営者の 農業所得 4,761千円 ◇販売金額 14,968千円 ◇農業所得 4,761千円 ・基幹的従事者 1人 ◇支払労務費 790千円 ・補助的従事者 4人	○水稻、飼料用米の乾燥・調製は共同乾燥調製施設を利用 ○水稻育苗ハウスの後利用としてストックを作付け ○ハウス早熟メロンの後作としてストックを作付け

新規就農についての相談・問い合わせ

■ 公益財団法人やまがた農業支援センター

(山形県新規就農相談センター)
(山形県青年農業者等育成センター)
〒990-0041 山形市緑町一丁目9-30 緑町会館6階
TEL (023) 641-1117 FAX (023) 624-6019
URL : <http://www.yamagata-nogyo-sc.or.jp/shinkisuno>
E-mail:info-shinkishuno@yamagata-nogyo-sc.or.jp
※「女性農業者応援・相談窓口」も開設しています。



■ 山形県農林水産部

農業経営・担い手支援課

〒990-8570 山形市松波二丁目8-1
TEL (023) 630-2464 FAX (023) 630-2558

■ 村山総合支庁農業振興課

〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68
TEL (023) 621-8387 FAX (023) 622-3071

■ 最上総合支庁農業振興課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上2034
TEL (0233) 29-1320 FAX (0233) 22-0662

■ 置賜総合支庁農業振興課

〒992-0012 米沢市金池7丁目1-50
TEL (0238) 26-6049 FAX (0238) 21-6941

■ 庄内総合支庁農業振興課

〒997-1392 三川町大字横山字袖東19-1
TEL (0235) 66-5724 FAX (0235) 66-2535

雇用就農などの相談窓口

■ 一般社団法人山形県農業会議

〒990-0041 山形市緑町一丁目9-30 緑町会館6階
TEL (023) 622-8716 FAX (023) 634-8640
E-mail : kaigi@yca.or.jp URL : <http://www.yca.or.jp>

農業技術・経営指導などの相談窓口

■ 村山総合支庁農業技術普及課

〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68
TEL (023) 621-8277 FAX (023) 621-8275

■ 村山総合支庁西村山農業技術普及課

〒991-8501 寒河江市大字西根字石川西355
TEL (0237) 86-8214 FAX (0237) 86-8247

■ 村山総合支庁北村山農業技術普及課

〒995-0024 村山市樋岡笛田四丁目5-1
TEL (0237) 47-8637 FAX (0237) 55-3239

■ 最上総合支庁農業技術普及課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上2034
TEL (0233) 29-1326 FAX (0233) 22-2026

■ 置賜総合支庁農業技術普及課

〒999-2174 高畠町大字福沢160
TEL (0238) 57-3411 FAX (0238) 57-3414

■ 置賜総合支庁西置賜農業技術普及課

〒993-8501 長井市高野町二丁目3-1
TEL (0238) 88-8212 FAX (0238) 83-1119

■ 庄内総合支庁農業技術普及課

〒999-7601 鶴岡市藤島字山ノ前51
TEL (0235) 64-2103 FAX (0235) 64-2104

■ 庄内総合支庁酒田農業技術普及課

〒998-0857 酒田市若浜町1-40
TEL (0234) 22-6521 FAX (0234) 22-6522

知識・技術の習得

■ 山形県立農林大学校

〒996-0052 新庄市大字角沢1366
TEL (0233) 22-8794 FAX (0233) 23-7537

全国の就農相談窓口

■ 全国新規就農相談センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8
中央労働基準協会ビル2F 全国農業会議所内
TEL (03) 6910-1133 FAX (03) 3261-5131

東京での相談窓口

■ 山形県Uターン情報センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館13F 山形県東京事務所内
TEL (03) 5212-8996 FAX (03) 5212-9028

■ やまがたハッピーライフ情報センター

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階 NPO法人ふるさと回帰支援センター内
TEL (03) 6269-9533 FAX (03) 6269-9534